

地下鉄開業30周年を迎えて —統計資料でみる京都市の昔と今(その2)—

京都市には、明治42(1909)年に刊行された「京都市統計書」をはじめ、たくさんの統計刊行物が保管されています。今回は、もうすぐ30周年を迎える京都市営地下鉄が開業した直後(昭和56(1981)年6月)に刊行された、「京都市統計情報 No.213」の記事「市営交通事業の現状と地下鉄の開業」や、昭和58(1983)年3月に刊行された「京都市統計書 昭和57年版」等の中から、約30年間で地下鉄にまつわる数字がどう変化したかをご紹介します。

○地下鉄のあらまし

京都市営地下鉄烏丸線は、昭和56(1981)年5月29日に、北大路駅・京都駅間(営業キロ6.6km)の8駅で開業しました。その後、昭和63(1988)年に京都駅・竹田駅間が、平成2(1990)年に北山駅・北大路駅間が、平成9(1997)年に国際会館駅・北山駅間が開業し、現在の姿となりました。

京都市営地下鉄東西線は、平成9(1997)年10月12日に、二条駅・醍醐駅間(営業キロ12.7km)の13駅で開業しました。その後、平成16(2004)年に醍醐駅・六地藏駅間が、平成20(2008)年に二条駅・太秦天神川駅間が開業し、現在の姿となりました。

現在は、毎日、烏丸線と東西線合わせて延べ地球1周半近い5万6千kmを走り、市内を南北、東西に結んでいます。

○営業キロ数・車両数・駅数・運転間隔の比較

「京都市統計情報 No.213」や「京都市統計書 平成22年版」等を用いて、開業当時と、平成21(2009)年度末との、駅数、営業キロ数、在籍車両数、1編成当たりの車両数、運転間隔を比べてみます。

まず、駅数と営業キロ数をみますと、東西線の開業もあり、それぞれ開業当時の3.9倍、4.7倍になっています。ちなみに、烏丸線だけでみますと、平成21(2009)年度末にはそれぞれ15駅、13.7kmとなっております。駅数は1.9倍、営業キロ数は2.1倍になっています。

次に、1編成当たりの車両数をみますと、烏丸線では、開業当時4両編成でしたが、昭和63(1988)年に竹田駅まで開業したことに伴い、6両編成に増両されています。東西線では、開業当初から6両編成となっております。

運転間隔をみますと、昼間時を除き、開業当時よりも待ち時間が短くなっています。

表-1 開業時と平成21年度末との比較

	昭和56(1981)年 5月29日時点	平成22(2010)年 3月31日現在	開業時と比べて
駅数	8駅	31駅	3.9倍
営業キロ数	6.6km	31.2km	4.7倍
在籍車両数	36両	222両	6.2倍
1編成当たりの車両数	4両	6両	1.5倍
運転間隔			
朝のラッシュ時	5分00秒	3分30秒~4分00秒	1分30秒~1分00秒短縮
夕のラッシュ時	6分00秒	5分00秒	1分00秒短縮
昼間時	6分30秒	6分00秒~7分30秒	30秒短縮~1分00秒延長

○旅客数の比較

「京都市統計書」や、京都市交通局が公表している資料を用いて、開業から平成22(2010)年度までの、月ごとの1日当たり旅客数の推移をみますと、

まず、東西線の開業前をみると、最も多かったのは、烏丸線が開業した昭和56(1981)年5月の、32万6千人でした。開業日の29日(金)と、続く2日間(30日(土)、31日(日))の賑わいが想像されます。

次に、東西線の開業後をみると、最も多かったのは、平成22(2010)年4月の、36万3千人でした。

開業からちょうど30周年を迎える平成23(2011)年5月29日(日)には、「おかげさまで30周年 京都地下鉄まつり」が開催されます。30年前に思いをはせつつ、お出かけになってみてはいかがでしょうか。

図-1 京都市営地下鉄の1日当たり旅客数(昭和56年度から平成22年度まで、月別)

